

# 第3

# 分科会

- 【3-1】今求められる道徳授業のあり方について～児童生徒アンケートから～
- 【3-2】 乗り遅れを出さない！再乗車へ！  
～不登校対策と予防～
- 【3-3】「ものの温度と体積の考え方」
- 【3-4】 拝啓 理科に興味がある方々へ…

## 今求められる道徳授業のあり方について

### ～児童生徒アンケートから～

(小学校 調査・研究所員)

#### 1. アンケート実施の目的

平成 30 年度から実施される道徳の時間の教科化に向けて、小学生の意識、中学生の意識を数値化し、道徳授業のあり方や道徳授業によって子どもたちにどのような力が育まれるかを明らかにしていく。

#### 2. アンケート内容

小学校 3 年生から中学校 3 年生をアンケート対象とし、小学校 3 校、中学校 1 校で実施。アンケート項目と回答数は以下の通り。

- (1)日常生活に関する2択の質問が5問
- (2)学校生活に関する4択の質問が 10 問
- (3)道徳の時間に関する4択の質問が 12 問
- (4)自分自身に関する2択の質問が7問
- (5)その他、日常生活や道徳の時間について、複数回答可の質問が3問

| 学年  | 小 3 | 小 4 | 小 5 | 小 6 | 中 1 | 中 2 | 中 3 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 回答数 | 303 | 351 | 376 | 388 | 240 | 265 | 265 |

※無回答 32 名 多重回答によるエラー 3 名

#### 3. アンケート結果

実施したアンケート結果の一部を以下に紹介していく。アンケート実施校、及び校種により多少の違いがあるが、その小学校・中学校の合計数で結果を提示していく。

(1)道徳の時間が好きか。

| そう思う | 思うことがある | あまり思わない | 思わない | 無回答 |
|------|---------|---------|------|-----|
| 595  | 875     | 477     | 208  | 53  |
| 27%  | 40%     | 22%     | 9%   | 2%  |

(2)心に残っている道徳の時間がある。

| そう思う | 思うことがある | あまり思わない | 思わない | 無回答 |
|------|---------|---------|------|-----|
| 566  | 614     | 592     | 357  | 78  |
| 26%  | 28%     | 27%     | 16%  | 3%  |

(3)道徳の時間は役に立つと思う。

| そう思う | 思うことがある | あまり思わない | 思わない | 無回答 |
|------|---------|---------|------|-----|
| 873  | 733     | 375     | 158  | 72  |
| 40%  | 33%     | 17%     | 7%   | 3%  |

(4)道徳の時間で、自分のことをよく考えるようになった。

| そう思う | 思うことがある | あまり思わない | 思わない | 無回答 |
|------|---------|---------|------|-----|
| 512  | 748     | 624     | 252  | 73  |
| 23%  | 34%     | 28%     | 12%  | 3%  |

#### 4. アンケート分析と考察

(1)学年による道徳の授業に関する意識について

「道徳の授業が好きか」という質問に対する回答を学年ごとに分析し、小中9年間を通じた道徳の授業をすすめるために必要な手立てを考察する。

(2)道徳の授業と児童・生徒の自己肯定感について

道徳の時間に関する質問に対する回答と、自分自身に関する質問に対する回答から、道徳の授業が児童・生徒の自己肯定感にどのような影響をあたえるかを分析する。

(3)道徳の時間の授業形態について

道徳の時間の授業形態に関する質問の回答と、道徳の時間に関する質問に対する回答・自分自身に関する質問に対する回答から、児童・生徒の道徳性を育むためにどのような授業が必要かを考察する。

(4)児童・生徒の道徳性と学校生活について

道徳の時間に関する質問に対する回答と、学校生活に関する質問に対する回答から、児童・生徒の道徳性と学校生活の関係性を分析する。

#### 5. まとめ

アンケートの分析結果から、道徳の授業に関して以下の5点のことが考えられる。

(1)道徳教育を推進していくことは、児童生徒の自尊感情を高めることにつながる。

(2)小中連携を推進し、9年間を見通した道徳教育を考えていく必要がある。

(3)テレビ・ビデオなどの視覚教材を用いた道徳の授業が、児童生徒の意欲を高めることにつながる。

(4)読み物教材等を題材とし、話し合い活動を取り入れた授業は大きな効果が見込まれる。

(5)学校生活全体を通して、児童生徒の道徳性を育むことができる。また、道徳の授業は、児童生徒の道徳性を育む上で、学校行事等と同等の効果をもつ。

今回のアンケート調査は、調査研究所員が在籍する学校で実施したため、以上の考察は、校内での取り組みや地域性等により違いが現れる可能性も考えられる。しかし、これらの考察は、私たち教職員が道徳の授業を行ううえで「そうではないか」と考えていたものであり、その妥当性がアンケート結果により数値として表されたことには一定の成果があったと考える。今後、より良い道徳の授業を展開し、児童・生徒の道徳性を育んでいく上で、今回の考察がその一助となれば幸いである。













今までの学習を活かしながら、それぞれの工程の科学的な意味を考えて、下段に記入させる。そして『なぜ、海水をそのまま加熱するのではなく、4つの工程を経て、集めた液体を加熱するのか』という疑問に気づき、先人の知恵を学ぶ場面で活用された。

後の研究協議で、記述にはどうしても文章の表現力が関わるので、個人の得手不得手による差や日頃の「書き方」の指導の徹底などシートの有用性と共に課題となる観点も示された。

## (2) ルーブリック評価

ルーブリックとは、子どもの学習到達状況を評価するための、評価基準表のことである。今年度はより深く研究を進めるために、それを提唱されている関西大学総合情報学部教授の黒上晴夫氏を理科所員のアドバイザーとして招き、助言いただいている。黒上氏らが研究するルーブリックでは、縦軸に複数の評価項目を置き、横軸にはその到達レベルをS・A・B・Cの4段階で定義する。所員が活用しているものはA・Bの評価と支援が必要な児童に手立てを考える方法を採用しているが、いずれも子どもの学びが各評価項目のどのレベルまで到達しているかを測ることで、授業者によって変わることのない、客観的な評価をすることを目標としている。

理科では他の多くの科目と同様、数値を評価基準にすることは難しく、授業の中でワークシートに記述する観点やキーワードをもって、その有無で基準とした。どの場面で取り組ませることが有効か、また個人の評価となるため他人の発言を聞いたり相談したりして追記をしないようにさせるなど、実施の方法での課題面は今後も追究していく必要がある。

## 問題2. なぜ海水をそのまま加熱するのではなく、①～④の作業で作った液体を加熱するのか？

＜A規準＞B規準に加えて、太陽の力を利用していることや、塩の濃度が高いので、（濃度が低い場合よりも）薪の使用が少なくて済むなど、自然の力の利用や資源の節約の観点での記述がある。

例. （B規準の内容に加えて）多くの食塩を取り出すのに薪の使用が少なくて済む。

※ 自然の力の利用や資源の節約の観点での記述のみはB規準

＜B規準＞問1の答えをもとにした記述である。

例. 塩の濃度が高い液体を作ることで、短い時間で多くの食塩が取り出せる。

＜支援の手立て＞

問1の答え（濃度が高い食塩水を加熱すると、短い時間で多くの食塩が取り出せる）をもう一度確認する。

### (3) 研究協議における評価基準作成について

ルーブリック評価の目標は前述の通り、“客観的な評価”である。しかし、上記のように記述をその基準にした場合、曖昧な表現は評価者個人の主観が入ってしまうことが多い。それを少しでもなくし、公平・公正に評価を行うためには、“客観的な視点”を持つ必要がある。そこで、研究協議では参加者一人ひとりが、実際に研究授業で使われた数人分のワークシートを、授業者が決めた評価基準に沿って評価をする。A、B、もしくは支援を要すると一同の評価が統一されていれば問題はない。しかし、中には以下のように評価が分かれることも少なくはない。そんな場合に参加者は、個人の見解を述べながら意見を交流し、より“客観的な視点”のすり合わせを行っていく。あるいは、評価基準の表現やキーワードを見直す必要があると気付く場合もある。そうして研究授業後の協議において、評価基準をみんなで改めて作成していくことは、協議が活性化し充実するだけでなく、大変意義があると思われる。

The image displays a collection of handwritten notes and a diagram. On the left, four sticky notes are arranged in a 2x2 grid. The top-left note is labeled 'A' and contains the text '好意がわかっていていいから'. The top-right note is labeled 'B' and contains '判断できない理由が理解できない'. The bottom-left note is labeled 'C' and contains '文章は書いているが理由が具体的ではない'. The bottom-right note is labeled 'C' and contains '表現量が多いという、判断できないという表現のところで支援が必要'. To the right of these notes is a geological cross-section diagram showing different soil layers with labels like '地表面', '地盤', and '地層'. A scale bar indicates 10m. Below the diagram is a text box with the number '1' and the text 'X地点のボーリングをしたとすると、深さ10mの地質は何か。また、この層の年代を特定するには、どのようなことがわければよいか。'. Below that is another text box with the number '2' and the text '判断できない。土層高さが、高すぎて判断できない。'. At the bottom left, there is a table with the title '実習' and several rows of text describing the purpose, method, results, and materials of a practice activity. At the bottom right, there is a text box with the number '5' and the text '新しい地面が上っていて、下の方の土がでてくるから下の方のアズキ土層が新しくでてくる'.

↑参加者が評価を付箋の色で分け、その理由を書き込んである。資料では上段が「A」、下段が「支援を要する」と分かれている。

1. X地点のボーリングをしたとすると、深さ10mの地質は何か。また、この層の年代を特定するには、どのようなことがわければよいか。

2. 判断できない。土層高さが、高すぎて判断できない。

5を目標せ！

新しい地面が上っていて、下の方の土がでてくるから下の方のアズキ土層が新しくでてくる

|                                     |
|-------------------------------------|
| 実習                                  |
| <目的> 茨木市の地下の様子からどのように大地が変化してきたかを調べる |
| <方法> 上にしたがって行う                      |
| <結果> プリント右側に記入                      |
| <材料> *資料から大地の変化が推測できたか【S・A・B・C・未】   |

### 3. 天王中学校での研究授業（平成 28 年 2 月 16 日(火)13:05～）

今年度は同じ所員の天王中学校高木彰太教諭と共同で中学 2 年生の‘電流の性質とその利用’の単元で授業作りを行った。今まで所員として取り組んできたことと小学校の視点を中学校の授業の中に入れることで、小学生が受けてもきっと楽しめるであろう内容になっている。

日常生活には欠かせない電気だが、自分の行動と結び付け、電力量などを意識しながら利用している生徒は少ない。そこで、この授業に利用するとわからないようにアンケートを取り、普段自分が使用している電力量を算出したり\*<sup>1</sup>、モデルルームの実験ボードを使って自分の行動をシミュレーションしたり、資料活用から自身の節電だけでなく、もっと広い視野での思考を求めたりと、学習と実生活、興味関心が一体になるように工夫した。

\*<sup>1</sup> エクセルデータを使っているのので、興味を持った先生が利用できるように授業後に市内共有フォルダに入れる予定。

### 4. さいごに

理科所員会では、年間で小学校 1 本、中学校 1 本の研究授業を行ってきた。そこでは、上記の柱をもとに、授業作りのあり方を考え発信してきたが、同時にたくさんの方の力添えもあり、所員会としても研究の課題や授業作りの奥深さを実感することができた。

所員の活動としては他に、夏季研修の実施や、この研究フォーラムでの発表がある。どれも最終的には、子どもが理科に興味関心を示し、主体的に取り組んだり、教師一人ひとりが自信を持って指導できるようにすることが目標である。

理科は元来、老若男女、言語などによらず人を魅了する力があると考えます。所員会活動は教員にその魅力を再認識させてくれる活動である。教員の皆さんには今後この活動に積極的に参加し、自分が気づいた理科の魅力を子どもたちに伝え、広げていただきたいと願っている。

敬具

#### 資料画像提供（学校名・役職等は所員当時）

分析・解釈シート  
ループリック評価例 } …H26 年度所員 沢池小学校 久田達彦教諭

研究討議でのループリック評価作り  
…H25 年度所員 太田中学校 亀田直記教諭

#### 引用

分析・解釈シート …H26 年度所員 東雲中学校 田淵梨沙教諭

×

㊦

